

YULIANNNA AVDEEVA PROJECT 2016

ユリアンナ・アヴデーエワ [ピアノ] プロジェクト2016

美
をつむぐ
やわらかく、澄みきって、匂やかに

第1回 リサイタル *Recital*
10.28 [金] 19:00開演
(18:30開場)

J.S.バッハ: イギリス組曲第2番 イ短調 BWV807
ショパン: バラード第2番 へ長調
4つのマズルカ(ナショナル・エディション)
ポロネーズ第6番 変イ長調「英雄」
リスト: 悲しみのゴンドラ、凶星!
リヒャルト・ワーグナー —ヴェネツィア
ピアノ・ソナタ ロ短調

第2回 コンチェルト *Concerto*
11.6 [日] 15:00開演
(14:30開場)

ストラヴィンスキー: ピアノと管弦楽のためのカプリッチョ
バレエ組曲《火の鳥》(1919年版)
チャイコフスキー: ピアノ協奏曲第1番 変ロ短調
カチュン・ウォン[指揮]
新日本フィルハーモニー交響楽団



©Harald Hoffman

料金
[全席指定]

S ¥6,000 / A ¥5,000 / B ¥4,000

2公演セット券 S ¥10,800

[トリオ割] 1公演につき同時に3枚以上のお申込みで5%引き

[お申込み・お問合せ] *オンライン購入にはトリフォニーホールチケットメンバーズ(無料)へのご登録が必要です

トリフォニーホールチケットセンター 03-5608-1212 www.triphony.com

すみだトリフォニーホール

JR & 東京メトロ「錦糸町駅」より徒歩5分 / 東京スカイツリータウン®より徒歩20分

YULIANNNA AVDEEVA, *piano* PROJECT 2016

アヴデーエワのピアノニズム

「ユリアンナ・アヴデーエワのピアノニズム」と言ったとき、そこにはさまざまな意味が投影される。真っ先に思い浮かぶのはロシア楽派ともいべき「ピアノの流儀」だろう。アヴデーエワはモスクワに生まれ、当地のグネーシン音楽学校で基礎を固めた。スイスでの留学時代も含め、トロップ、シチュエルバコフ、パシュキロフといったロシア系の名教師のもとで研鑽を積む。

こと音楽の点でいうと、そこにソフロニツキー(1901-1961)の姿を見ずにはいられない。ソフロニツキーはスクリャーピンの衣鉢を継いだピアニスト。とりわけショパンの演奏に秀でる。もちろんアヴデーエワは、ソフロニツキーに会ったことはない。しかし両者の音楽には相通じるところがある。

そのことに気づかせてくれたのが、彼女のマズルカの演奏だった。ショパンの「マズルカ 短調」を聴いたとき、即座に思い浮かんだのはショパンとマイアペーアの論争だ。ふたりはマズルカのリズムを巡り、3拍子か2拍子かで口論になった。祖国の民俗舞踊をよく知るショパンにとって、2拍目にアクセントがあり3拍目がすこし早めに引込む運びは、まさにマズルカの3拍子。しかし、そうでないものにとってそれは、2拍子に聴こえなくもない。ショパンにまでさかのぼる、このぎりぎりの拍節感をアヴデーエワは、さも当然のように表現していた。そしてそれは、ソフロニツキーのマズルカと軌を一にしている。

このたびのリサイタルでもそんなマズルカを聴くことができる。マズルカはバッハやリストなどの大きな演目の谷間に咲く、小さな花々のようにも見えるが、そこには脈々と受け継がれたロシアのピアノの流儀が息づいている。

彼女がマズルカを弾いてくれたのは、2013年の4月5日。すみだトリフォニーホールで行われたコンサートアンコールとしてだった。この演奏会でアヴデーエワは、ブリュッヘンの

指揮のもと、18世紀オーケストラとともにショパンの2つの《ピアノ協奏曲》を披露した。アヴデーエワの弾くピアノからは、音色変化にとどまらず、弦楽器の弓づかいや管楽器の息づかいさえも聴こえてくる。それがいわば子音の役割を果たし、ピアノが滑舌よく語り出す。だから1本の旋律を弾くときさえ、何人もの登場人物がおしゃべりしているように感じられる。そんなピアニストに、経験豊かなオーケストラが寄り添い、懐の深い話し相手となる。両者が実現したのは、競い合うのではなく、語り合う音楽だった。

「アヴデーエワのピアノニズム」のふたつめは、この「語り合う姿勢」だ。その本領が発揮されるのは、やはり協奏曲において。そこには独り言、ふたりの対話、大勢の言い合いなどがすべて含まれる。その中身は思い出し笑いだったり、愛のささやきだったり、真面目な会議だったりするだろう。

このたびのプログラムで言えば、ストラヴィンスキーの《カプリッチョ》がなかなか興味深い。独り言の束のような楽想が、ときにかみ合ったり、平行線をたどったり。そのうちピアノと管弦楽との呼応が多くなり、愉しげなおしゃべりを思わせて大団円。このように「対話」が前面に出た作品は、「アヴデーエワのピアノニズム」を堪能するのにこの題材だ。

「話し相手」は新日本フィルハーモニー交響楽団。ブリュッヘンとの長年にわたるパートナーシップによって、彼の音楽を体に染み込ませている。指揮はシンガポールの新鋭、カチュン・ウォン。会場はもちろん、すみだトリフォニーホールだ。2013年のあの鮮やかな演奏会が、アヴデーエワを扇の要として、形を変えて帰ってくる。「おしゃべり」の花が咲く錦糸町の秋が待ち遠しい。

音楽評論 澤谷夏樹



©Harald Hofmann

ユリアンナ・アヴデーエワ [ピアノ]

Yulianna Avdeeva, *piano*

2010年のショパン国際コンクール覇者。モスクワに生まれ、グネーシン特別音楽学校を経て、チューリッヒ芸術大学にてシチュエルバコフに、同時にトロップに師事。W.G.ナボレ主催のコモ湖国際ピアノアカデミーにて、パシュキロフ、ベルマン、フー・ツォンらの薫陶を受けた。これまで、ギルバート指揮NYフィル、デュトワ指揮N響、プロムシュテット指揮チェコ・フィル、ブリュッヘン指揮18世紀オケ等と共演。東日本大震災のチャリティCD、ブリュッヘン指揮18世紀オケとのショパン、MIRAREからシューベルト、プロコフィエフ、ショパンのCDを発売中。



「ショパン:幻想曲 作品49他」 ユリアンナ・アヴデーエワ(ピアノ)

- 【曲目】リスト:巡礼の年第2番 他
- MIR-301/キングインターナショナル
- 録音:2015年
- オープン価格、直輸入盤・日本語解説付

カチュン・ウォン [指揮] Kah Chun Wong, conductor

2016年5月グスタフ・マーラー国際指揮者コンクール優勝。1986年シンガポール生まれ。シンガポール・シュウツウ音楽院にて作曲と音楽学を専攻。ベルリン ハンス・アイスラー音楽大学でオーケストラ指揮とオペラ指揮をバウム氏、エーヴァルト氏に師事。ジュネス・ミュージカル・アカデミー国際指揮コンクール1位。以後ベルリン・コンツェルトハウス管、ロサンゼルス・フィル、サンクトフィル等に客演。マズア、ハイティンク、サロネンらの薫陶を受ける。2016年シーズンより、ベルリン・フィル Fellowship in Music Educationを務める。



新日本フィルハーモニー交響楽団 New Japan Philharmonic

料金 [全席指定]
S ¥6,000/A ¥5,000/B ¥4,000
2公演セット券 S ¥10,800

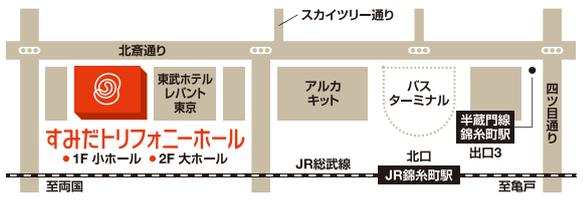
※セット券はトリフォニーホールチケットセンター/カジモトイープラスのみ取扱い
[トリオ割] 1公演につき同時に3枚以上のお申込みで5%引き

■お申込み・お問合せ:
トリフォニーホールチケットセンター… 03-5608-1212 www.triphony.com
※オンライン購入にはトリフォニーホール・チケットメンバーズ(無料)へのご登録が必要です

■前売り: カジモトイープラス …… 0570-06-9960 kajimotoeplus.com/
e+(イープラス) …… eplus.jp
チケットぴあ [Pコード:296-686(10/28)296-741(11/6)] …… 0570-02-9999
ローソンチケット [Lコード:32765] …… 0570-084-003
東京文化会館チケットサービス …… 03-5685-0650
新日本フィル・チケットボックス (11/6のみ) …… 03-5610-3815

主催・企画 ● すみだトリフォニーホール
招聘制作 ● KAJIMOTO
協力 ● ヒラサ・オフィス
(公財)新日本フィルハーモニー交響楽団 平成28年度文化庁
※都合により公演内容の一部が変更となる場合がございます。劇場・音楽堂等活性化事業
※未成年の観覧はご遠慮下さい。

トリフォニーホール託児サービスのご案内
ご予約・お問合せ: 0120-500-315 [平日10:00~17:00]
小学館集英社プロダクション HAS(ハズ)



JR & 東京メトロ「錦糸町駅」より徒歩5分/東京スカイツリータウン®より徒歩20分

すみだトリフォニーホール

@TriphonyHall facebook.com/SumidaTriphonyHall